

1. 文系の極端

文学部の教員で論文というよりも本を書くことで評価されている。私は賞にも入る本を複数冊書いているので本を読んでいただければ私の主張することは書いてある。コンピュータで文章を読むよりは本で読んだほうが私の言いたいことはよくわかると思う。この期に及んでインターネットで論文を、といわれてもいい仕事ができるのかね？

⇒⇒⇒なかなかひどい。これは無理か。でも、文系は本を書くことが仕事で論文は片手間なのは事実。リポに興味ないかもね。

*-----

先生がおっしゃることはよくわかります。確かにそのような部分・考え方はそのとおりですので理解できます。

ただ、インターネット上へ論文単位で著作物を公開することで、まず、自分の著作物を自分以外の人に読んでもらいやすくなることも事実だと考えます。また、本そのものをインターネットで公開するという方法も不可能ではありません。

その際は著作権者(すなわち作成者)が著者側にあるのか、出版社側にあるのかを確認する必要があります。両者にインターネットでの全文公開という許諾が必要の場合が多いでしょう。また、その本(著作物)の中で写真などの引用をされている場合は加えてその写真をインターネット上で表示してもよいかという許諾が必要になる場合もあるので注意が必要です。

申し上げたいことは、自分の著作物を自分以外の人に読んでもらいたい、という気持ちがあるなら、インターネットに公開することは現代社会の流れから考えて、印刷物のみという世界より、少しでもたくさんの人が目にすることが可能だ、ということは事実だと考えています。

※ダメだし

先生は有名かもしれませんが、自分以外の少しでも、もっとたくさんの人に自分の著作物を読んで欲しくないのでしょうか？

2. 法律の盲点

法学部の教員だが、インターネットに論文を掲載する場合、法律的な根拠はどうなるのか。単にリポジトリ掲載の許諾を著者に取ったところで、当の本人の著作物ではないものも含まれる場合もある。著作権の法律自体、インターネットに完全に対応しているとも思っているのかね？。完全対応できていない以上、私は公開に賛成できない。

⇒⇒⇒きびしいねえ。実際に著作権関連の法律は紙ベースを基に作成されており、厳密にはコンピュータはもちろん、インターネットを基準に作成されていないことは事実で、解釈を無理に当てはめているということに過ぎない。適用というところまで行っていないかも知れない。でもここまできたら行き過ぎやと思うが、こんな人いるかも。裁判は屁理屈、とするとここまで言えるか？

*-----

おっしゃるとおり、著作権に関する法律はインターネットがあるという前提で法令が作成、条文が書かれているわけではありません。

ただ、著作権関連の法律は著作者をどのように保護するか、つまり、クリエイした労力をどのように評価するか、ということが根本であり趣旨・目的ですから、条文が現状から発生していなくても著作者の権利を保護することをインターネット上で適用する、ことは可能だと思います。

また、法律の解釈を拡大的に適用する(つまり、法律解釈・適用の裁判の判例、のようなものでしょうか)慣例に則る、ということも法律運用上行われていることを考えると、すべてがダメというわけではなく、適切に創作者(著作者)の権利を尊重すれば問題ない、とも解釈できるかと考えます。

ですので、著作者にインターネット公開を許諾した範囲で著作部分(基本的に著作文章の部分)は公開しても問題はないはずです。著作者が引用した図表に関してはその部分のみ公開しないという方法も可能ですし、その部分でも公開許諾が得られるなら、公開してもいいと考えます。

※ダメだし

どうしても問題があるとおっしゃっても社会の流れがインターネットで検索するという方向ですから、その流れは変えられないと考えます。ですので、先生抜きで公開したい人にお声をかけてリポジトリ事業を進めたいと思います。オフィシャルサイトでなくてもシステム公開可能ですから、サンプルを作成しますので一度見ていただければと思います。究極の法律解釈と、自分の著作物を少しでも多くの人に読んでもらいたい気持ちのどちらが大きいのか、ですね。

3. システムについての盲点

本学ではホームページを立ち上げている。ホームページの一部にそのような論文全文データを入れておけばいいのではないかな？ 新たなシステムは必要ないと思うが。図書館システムの機能でもカバーできるはずである(LIMEDIO ではシステム対応している)。無料のブログの一部でも運用できないのか。だいたい、検索サイトからブログや通常のホームページなどの方が検索されやすいのではないかな？ (これは事実)。実際どれくらいの人が見るのか、そんなに見ないのであれば、無くてもいいのではないかな？

⇒⇒⇒これはごもっとも。実際に素のページにリンクしたほうが検索サイトから引っかけやすいですかねえ。googl→サイニーと比べてもどうかあやしい？

*-----

確かにインターネットに公開するのは基本的にホームページと同じ理屈・技術ですから不可能ではありません。検索サイトからのヒットも同じことです。

ただ、リポジトリシステムを導入せずに電子データを公開し続けるにはホームページのメンテナンスが大変になり、公開するアイテムが増えれば増えるほど管理・検索が難しくなることは事実です。

つまり、コンピュータシステムも図書館のような建物と同じで、構築するためには設計図を引き建物強度を確認してから実際に建物を建てることになります。素人が掘っ立て小屋を敷地いっぱいにつけても何もいいことはなく、構造的に適切な管理が行き届くシステムにするには専門家の手ほどき・指導が必要な部分はどうしても取り除けません。

また、ホームページでそのままデータを管理するとなると、ホームページ作成技術が必要になり、その技術を学内構成員全員に行き届かせる必要があります。つまり、学内的な技術力強化が必須になるわけですが、その手間と時間を考えると、リポジトリシステムを導入することはそんなに高い買い物ではないはずですが、リポジトリシステムではそう肩肘をはらなくてもある程度簡単に著作者が登録できる状態になります。図書館システムでの電子データの公開は基本的に世界標準ではない場合がほとんどですから、世界標準のデータ公開を行いたいならどうしても図書館システムとは別にリポジトリシステムが必要になります。公開するもの(アイテム)は論文だけではなく、学内で作成されたありとあらゆる著作物が対象になりますから、大学のインターネット上の広報場所を作成することに等しいとも解釈できます。(大学のインターネット上の広告塔として考える方もおられます)

具体的な価格としては大学事務システム・図書館システム本体と比較してもかなり安い部類(高くても1000万円以内、基本500万円以内)ですから、手間を業者に依頼するとも高くはないですし、箱(ハードウェア)のみ購入して自力構築という道もあります。図書館システムリプレースと併せて購入し、私立大学の補助金対象物件の中にも含めることも可能であると考えます。加えて、自分の著作物を少しでも多くの自分以外の人に読んでもらいたい、という気持ちが先生方にあるなら、是非リポジトリシステムは導入するべきです。

※ダメだし

どうしても予算的にダメだ、とおっしゃるならオフィシャルサイトでなくてもシステム構築はオープンソース(≒タダ)で可能ですから一度試作品を見ていただき、判断していただいても結構です。何度も申し上げますが、大学のインターネット上の広告塔ですから、導入するべきなのは明白です。